



2020年10月 NO.10  
合同会社 I アンド S  
福岡市中央区大名2-10-1 A1208  
Tel092-791-1498 Fax092-791-1641



## DV相談しやすく #8008

内閣府は、ドメスティックバイオレンス（DV）の被害者が電話で相談しやすくするため、10月1日から4桁の全国共通短縮ダイヤル「#8008」を導入する。現在も10桁の番号があるが、長く覚えにくい上に認知度が低いことが課題となっている。

新型コロナウイルス感染拡大の影響でDVの深刻化が指摘されており、覚えやすい番号を周知することで迅速な支援につなぐ。

内閣府によると、新型コロナ感染拡大に伴う外出自粛で、自宅で過ごす時間が増え、生活不安やストレスで夫が妻に暴力を振るうケースが増えている。6月に全国の配偶者暴力相談支援センターに寄せられた相談は1万2000件を超え、前年同月比2割増だった。内閣府の担当者は「氷山の一角だ。家庭内で抱え込み、表面化していないケースも多いだろう」と話す。

配偶者暴力相談支援センターは、都道府県や市区町村が設置する公的な支援機関で、緊急時の安全確保やカウンセリングを実施している。

内閣府は、新型コロナ感染拡大を受けて4月から、DV相談ナビとは別の10桁の電話番号で、専門の相談員が24時間態勢で相談を受け付ける事業を臨時的に実施している。今回の#8008とは別の事業として継続する方針。

また、性暴力被害相談について全国共通ダイヤル（#8891）の運用をはじめる。

## 第二波襲来 なりすましメール利用者自身による警戒を！

メール情報を盗み取るなどするマルウェア（悪意あるプログラム）の一種「Emotet（エモテット）」の第2波が襲来している。感染した端末から偽メールを発信して連鎖的に拡散する特徴があり、9月は国内で被害が拡大した2019年を上回る勢いで確認例が増えている。

エモテットは、偽メールに添付されたワードファイルを開き、「マクロ」と呼ばれる自動変換などの簡易プログラムを有効にすると感染する仕組みになっている。感染すると連絡先リストや過去のメールを抜き取り「請求書をご確認ください」などと自然なやり取りを装ったメールを発信する。返信メールの形をとることもあり、受け手が文面などから偽物と見破るのは容易でない。

セキュリティ会社ラックがネットワーク監視を請け負う日本企業や官公庁など約1千団体を対象にした調査では、9月1～10日だけでエモテットと疑われるメールを2244件確認した。確認件数が多かった19年12月（1950件）をわずか10日間で上回った。9月4日には日本医師会の事務局のネットワークにつながったパソコンで感染が確認され、同会は関係者を装ったなりすましメールに注意を呼びかけた。

一般的なビジネス上のやり取りでワードファイルのマクロを有効にする必要があることは少なく、ラックのサイバー救急センター長は「マクロを有効にしなければ見られない添付ファイルはエモテットを疑った方がよい」と話す。

エモテットには感染端末に侵入の「裏口」を開け、別のマルウェアを仕込むことを可能とする機能もある。民間団体JPCERTコーディネーションセンターによると、エモテットからランサムウェア（身代金要求ウイルス）などの感染につながった例が国内でも確認されているという。



## 高齢者の予防接種 福岡県無償化方針

福岡県は、秋以降に懸念される新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行に備え、65歳以上を対象にインフルエンザワクチンの予防接種を無償化する方針を固めた。県議会9月定例会に提案している補正予算案に、無償化にかかる18億円を含む約42億円を追加提案する。

高齢者にインフルエンザの予防接種を促し、重症化や医療提供体制の逼迫（ひっばく）を防ぐことが目的。市町村が助成後の自己負担分を県が全額負担する。心臓や腎臓、呼吸器に持病がある60～64歳の人も対象にする。

新型コロナ対策では、保健所を設置している福岡、北九州、久留米各市以外の市町村で、かかりつけ医など身近な医療機関で新型コロナのPCR検査などを受けた際、保険適用後の自己負担分を県が全額負担する。福岡、北九州両市は実施を決め、久留米市も準備を進めている。

また、接待を伴う飲食店での感染拡大対策として、ウイルス対応空気清浄機やサーモグラフィーなどの備品購入費用として1事業者当たり最大20万円（複数店舗を運営している場合は最大40万円）を支援する。

### 飲酒で大声 感染高リスク コロナ7類型提示

政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会は、「飲酒を伴う懇親会」など感染リスクを高めやすい7つの類型を示した（下記の通り）。政府が10月1日から旅行需要喚起策「Go Toトラベル」に東京を追加するのに合わせ、改めて具体例を示すことで感染拡大防止を促すのが狙いだ。

分科会が最も注意を呼び掛けたのが、「飲酒を伴う懇親会」だ。飲酒で聴覚が鈍くなり、大声になりやすい。狭い空間に大人数が長時間滞在すれば感染機会は増す。

「大人数や深夜に及ぶ飲食」も同様だ。

例えば、事務的な仕事自体はリスクが少なくても、「仕事後や休憩時間」は人が集まることで密になりやすい。マスクを外すこともあり得る。寮などの「集団生活」は、閉鎖空間で人数が多いと危険性が高まる。「激しい呼吸を伴う運動」は、換気の悪い閉鎖空間で人と人の距離が近い場合がこれに該当する。「屋外での活動の前後」は移動や食事で密になりやすい。

分科会では、一連の「Go To」事業に際し、少人数で時期や行き先を分散する「小規模分散型旅行」の推進を提言。感染が拡大して重症患者が増え、病床が逼迫（ひっばく）するなど「ステージ3」相当と国や都道府県が判断した場合は中止を求めた。

#### 感染リスクを高めやすい7類型

- |                 |              |
|-----------------|--------------|
| ① 飲酒を伴う懇親会      | ⑤ 集団生活       |
| ② 大人数や深夜に及ぶ飲食   | ⑥ 激しい呼吸を伴う運動 |
| ③ 大人数やマスクなしでの会話 | ⑦ 野外での活動の前後  |
| ④ 仕事後や休憩時間      |              |

